

稲作

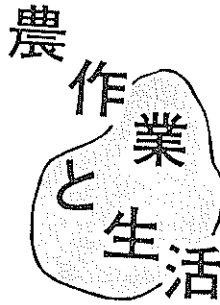
早生の田植後の管理は活着までは深水とし、その後は、浅水にして分けつゝの促進をうながします。

田植前の除草剤を使用しなかった場合は、田植後五日前後に、MO粒剤を均一に散布し、散布後は常に田面が露出しない程度に洪水。

分けつ開始期の除草剤使用が遅れた場合は、中耕除草作業を行なった後、MOまたはバムコン粒剤を使用、田植後二十五日以後幼稚形成期までの追肥は無効分けて多くし、倒伏しやすくなるので施さずにときどき中干を行なってください。

五月中旬の二化メイ虫の防除はふ化初期にダイアジノン粒剤またはバダンボールで行ない、食入虫の多い場合は、ディブテックス粉剤を使用すると良いでしょう。

五月下旬止草が遅れると無効分けつが多くなるので、なるべく早く終るようにし、止草後は軽く田面に亀裂が入る程度に落水し、無効



5月にしなければならぬ、主な農作業です。参考にしてください。

果樹

分けつゝの抑制と根の健全化をはかりましょう。湿地では特に効果が大きくまた倒伏防止の効果もあります。

▼かんきつ

草生園の管理
春草は急激に伸びてくるから刈取るか除草剤で処置するとよい。除草剤はレグロックスとグラモキ

農指導所 市営農改善委員会

旬に摘果と袋掛を、梨は落花後十日と二十日頃の二回に摘果と袋掛をすること。
ぶどうの芽かぎと摘房
枝が多過ぎると着花過多や日照不足となり果実の品質が悪くなるので早目にかぎとり、品種に合せて摘房すること。
かきの病害
炭そ病の発生が多い園では、五月中に1〜2回ダイセンを、ウドンコ病は水和硫黄剤で防除する。
桃、梅の病虫害
黒星病発生が多い園では、ダコニール、サニバー、水和硫黄剤でアブラ虫は、エストツクス、キル

▼落葉果樹

摘果と袋かけ
摘果は生理落果を終り次第、できるだけ早く行なう。桃は上、中

ハウス野菜

▼温度管理

高温障害は樹勢を弱め、病害の発生を助長し、品質収量を低下させます換気に十分注意すること。特に雨上りの晴天には注意し、急激な換気はさげましょう。

▼かん水

高温乾燥の障害が多くなります。換気が強くなり、蒸散量も多くなる反面、水の通りが悪くなると、土壌が乾燥し易くなります。適温を保つよう、かん水に注意すること。

▼整枝摘葉

茎葉が繁茂すると、光線不足となり、品質、収量に影響します。適度に整枝、間引をし、採光、通風をよくして、樹勢の回復をはかりましょう。

▼病害虫防除

高温に災されて、市場病害発の生が多くなり、販売が不利となります。悪天候は病害の発生を助長し、防除を困難としますが、徹底して行なうこと。

病害

▼灰色カビ病(全作物)

▼ウドンコ病(全作物)

▼空洞病(ピーマン、シントウ、トマト)

▼黒枯病(ナス)

▼葉カビ病(トマト)

▼べと病(胡瓜)

土壌病害(青枯病、いちよう病、半枯病、根腐れ症状)

虫害

▼アカダニ

▼アブラムシ

▼よとう虫

▼ジャガイモガ

▼ナメクジ

▼カタツムリ

使用農薬は防除指針参照

最近の出荷で、市場病害(灰色カビ病による腐敗果)の発生がみられております。市場価格を維持し、県外産との競争に打ち勝つため、収穫管理に注意をはらうと共に灰色カビの防除を徹底的に行なってください。